

令和3年度 静岡デザイン専門学校

学校自己評価・学校関係者評価

評価報告書

1. 教育理念・教育目標

〈 教育理念 〉

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈 教育目標 〉

教育基本法に則り、学校教育法に従い、服飾並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

〈 目標・計画 〉 ※令和3年度 実績報告書参照

— 特色ある教育を実践し、高校生や企業から選ばれる学校づくりを目指す —

1. 県下 No.1 の専門学校グループとして圧倒的な教育力を構築する。
2. 学則定員を必達とし、教室、教員、収支等の状況により目標募集人員を設定する。
専門学校 1045名。
3. コロナ禍における企業の採用動向を読み取り、より企業と密接したマッチングにより就職内定率、専門職就職率を高める。
4. 学校運営体制、専門学校グループ経営体制を見直し、柔軟でスピード感を持った組織運営を構築させる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

※各項目に対しての成果と課題については、通し番号①～で記載している。

(1) 教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は示されているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		4
<p><u>成果と課題</u></p> <p>①②教育理念並びに教育目標は入学時に配布される学生のしおりに記載されており、入学時のオリエンテーションで入学生全員に周知している。また、学校ホームページ（以降は学校HP）の学校情報でも公開している。 ⇒公開情報 静岡デザイン専門学校 (sdc.ac.jp)</p> <p>・教室には教育理念をスローガン化した『好きな道でプロになるために身につける5つの力 ①デザイン力②ビジネス力③社会人基礎力④テクノロジー活用力⑤社会貢献力⇒未来を生き抜く力』についての掲示を行い学生・教職員の目に触れる環境となっており、必要な時に想起することができるようにしている。</p> <p>③教育課程編成委員会など外部の意見を取り入れながら、全学科のカリキュラムの見直しを行い、新カリキュラムをスタートさせた。新しい取り組みとしては、共通選択科目の充実を図ったことで、従来は他学科のカリキュラ</p>		

<p>ムだった科目が用意されており、自分が所属する学科の知識に加え、学生自身が身につけたいスキルを55種類から選ぶことができるようになった。</p> <p>④⑤学校・学科のディプロマポリシー（卒業認定/専門士授与の方針）並びに、学校・学科のカリキュラムポリシーを学校HPの学校情報内で公開しており、教育目標、育成人材の方向性を示している。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この状況を維持・継続するとともに、さらに徹底を図っていく。 ・定期的に点検し、時代に合っているかを見定めていくことが必要。
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲の高い学生のスキルアップの機会と他学科とのコミュニケーションの充実を。 ・入学希望者に伝わりにくいところと思う。社会に出る前に身につけておいてほしいところ。 ・時代に合った理念が掲げられている。 ・理念目標とも示されており、周知が図れている

学校関係者評価平均

4

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①①文部科学省が推進する職業実践専門課程に全学科が認定されており、それに伴う教育課程編成委員会を年2回開催している。この委員会で企業委員からの有益な意見をカリキュラムに反映し、シラバスを改訂した。学生には学校HP上で公開している。
- ②学習到達レベルについては、学校HP/学校情報/ディプロマポリシーにて示されている。学習時間は学校HP/学校情報の2. 各学科の教育にて示されている。

- ③学科ごとカリキュラムポリシーに沿って体系化され運用がなされている。
- ④全学科に実務経験のある講師による授業を実施している（学校HP/実務経験のある教員等による授業科目の一覧参照）。
- ⑤全学科に産学連携をカリキュラムに取り入れており、外部と協同での授業を実施している。
- ⑥期末ごと授業アンケートを実施し、フィードバックしている。
- ⑦成績評価・単位認定基準はシラバス並びに成績評価の客観的な指標で明確にしている（学校HP/シラバス、成績評価の客観的な指標参照）。
- ⑧学科ごと業界で必要とされる資格をセレクトし、その資格を取得するための授業を設定し実施している。
- ⑨教員採用時には実績・人間性を確認した上で採用している。また、OJT教育によって教育の質を維持する取り組みを行っている。
- ⑩校内研修を定期的に行い教育スキルの維持に努めている。また、専門性スキルを維持するために外部研修予算を用意し、それぞれに見合った研修に参加している。
- ⑫正規授業以外に補講などを実施して底上げを行っている。

今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会を開催するにあたり、より多くの外部意見を取り入れるためには委員の方を定期的に入れ替える必要がある。前年は委員の一部更新とメンバー増員を行った結果、大変貴重なご意見を伺うことができた。引き続きメンバーの更新を図りたい。
- ・上位層や、やる気のある学生をフォローするため、チャレンジプログラム制度をカリキュラムに取り入れたが、学科ごと運用の仕方にばらつきがあるため、運用方法を再検討する。さらに学生にとって有益なものについては、自主的な取り組みを促したり、部活の中で取り組んだりするなど後押しを引き続き行う。
- ・学生自身が成長を自覚できるように「成長の見える化」を図る。
- ・様々な実績のアーカイブ化へ取り組み、広報しやすい環境を作る。

学校関係者 評価コメント

- ・コロナ禍における最善の活動がなされている。
- ・チャレンジプログラム制度の運用のバラツキがある、再検討に期待。
- ・目標に到達しない学生へのフォローを手厚くし、底上げを図って頂きたい。
- ・教育課程編成委員会、外部講師の活用、企業との連携など外からの情報を取り入れることで有益な授業になるような工夫がされていることは評価できる。
- ・評価方法等 HP を活用して、教職員、学生にも公開されて良い。コロナ禍のインターンシップ、資格取得、コンテストにも積極的に参加しており、活動のフィールドがより広がって良い。

学校関係者評価平均

4

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
学校自己評価 平均		3.75

成果と課題

- ①就職率の向上を図るため、全教職員が一丸となって指導にあたった。関連分野就職率目標 90%を掲げ、結果は 90.3%(前年 90.8%)となった。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、関連分野にこだわらない就職指導に切り替えた。全体の内定率は 97.5%(前年 94.9%)と苦しい状況下でも例年を上回る結果となった。
- ②資格取得に対しては、各学科が計画的に授業を構成し指導にあたっている。ほぼ前年並みの取得率を確保した。
- ③退学率低減のために、個別面談を行い早期に学生が抱えている問題を解決するよう努めた。また、AIを導入した分析により退学者予備軍を事前に把握し個別に対応した。年度末の退学率は 5.7%となり目標の 5.0%以内を達成できず、前年を上回る結果となった。前々年度は 6.8%、前年度 5.38%。
- ④新聞やSNS等による情報発信を注視しながら、卒業生の活動を確認している。また、本校の施設であるデザインファーム等を利用して個展などを開催する卒業生のサポートを行った。

今後の改善方策

- ・新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中ではあるが、グラフィックデザイン、インテリアデザイン分野は企業の採用が回復してきた。接触機会自体が増えてきているとはいえ、企業に対して様々なアプローチを検討する必要がある。一昨年の令和2年度からデザイン系学科において、ポートフォリオ制作を紙媒体で見せるだけでなく、Web上でも公開し、学生のデジタルスキルをあげるとともに、企業にPRできる環境を整えた。
- ・オンライン就活も増えてきているため、PC前でも面接がスムーズにできるよう学生指導を行う必要がある。
- ・各業界で今後必要とされる人物像も変化している。それらを把握しカリキュラムに反映させるため、企業との接点を増やし、情報収集を行う。
- ・学生の就職に対する意識が多様化しており、個々の学生の特性に合わせた、よりきめ細かな就職指導を行う。
- ・インターンシップを利活用し、早期内定に結びつけるとともに、教員の企業訪問による情報収集の場としての役割も強化していく。

学校関係者 評価コメント

- ・学生個々のモチベーションやニーズに合わせたサポートがされていると感じる
- ・休退学対象の学生にしっかりと対応できるのは良いこと。毎日学校に通うこと、コミュニケーションが取れることは社会に出ても必要。早い段階で身につくと良い
- ・退学率を低く抑える取り組みを続けて頂きたい。卒業生の活躍する機会が増え、在校生への刺激となれば。
- ・就職を確保できることは評価できる。退学率も改善がみられる。AIの導入も時代にマッチしている。紙だけでなくWebポートフォリオも良い。学年を超えたチーム化など学校としての努力がみられる。
- ・資格取得、就職率は専門学校としてのキモとなる事項だが、手をこまねくのではなく時流に合わせた対応ができています。コロナ禍で十分な就活が難しいとは思いますが、しっかりと成果を残せている。
- ・就職、資格は取り組みの成果が出ている。退学については、低い数値とは思いますが、目標に対して未達である。

学校関係者評価平均

3.8

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4

4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ① 常設の進路指導室を設置し、学生の就職相談には常時対応している。一昨年の令和2年度から専任職員を一人追加し、二人体制で進路活動支援・求人開拓を行った。校内企業ガイダンスを年1回実施し、姉妹校の開催するガイダンスについても学生に伝達・サポートしている。
- ② 学生面談は入学生に対しては、入学後早期に面談を実施している。スクールカウンセラーは、毎週金曜に来校し学生からのカウンセリング希望に対応している。また、スクールカウンセラーからの情報提供紙として『メンタルヘルス』を毎月発行し、学生及び教職員に配布している。入学前にはスクールカウンセラーのセミナー映像配信も実施し、入学への不安軽減に努めた。
- ③ 学生の経済的側面に対する支援として日本学生支援機構の奨学金制度・国の教育ローン等の案内を学生・保護者に対して紹介している。学校法人で取組んでいる学費サポートプランについても書面及び口頭で説明している。
- ④ 職員室横に保健室を設置しており、保健室管理担当者が日常の体調不良に対応している。また、コロナ禍での現在は、毎朝健康セルフチェックを行うことを日課にし、異常があった場合は学級担任が初期対応する体制を敷いている。
- ⑤ 保護者とは、後援会総会や各種イベント開催の案内を通して学校の状況を知らせている。また、積極的にマス媒体に露出することにより、保護者に学校の活動状況を告知している。
- ⑥ 卒業生に対しては卒業後の就職活動支援や、アルバイト募集への協力、情報の問合せへの対応等を行っている。
- ⑦ 高専一貫コースを設定して高校生への職業教育を実践している。
- ⑧ 就職活動の一環として、グラフィックデザイン科、企業に参加していただくポートフォリオセッションを行っていたが、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。それを補うためにWebポートフォリオを作成し公開し、就職活動につなげている。
- ⑨ 球技大会、ボウリング大会、日本平動物園見学、などの課外活動には担当教員、クラブ活動に対しては顧問を付け、支援活動を行っている。

今後の改善方策

- ・コロナ禍での就職支援活動をどのように行うことが効果的か検討していく必要がある。
- ・SNSを活用した卒業生とのコミュニケーションを利用し、相互の協力体制をシームレスになるよう工夫する。
- ・コロナ禍での学生並びに教職員、非常勤講師の健康管理に対する体制をより充実したものにする。
- ・教育費負担軽減制度が令和元年度よりスタートした。更新手続きを継続して行う。

学校関係者 評価コメント

- ・オンラインやSNS、連絡ツールの活用によりリアルタイムに情報共有でき、より良い支援につながっている

- ・コロナによって支援内容が変わってきたという印象。地域講演としても県内企業就職、県内学生の受け入れ地元でできることがもっと増えると良い。
- ・保護者とのコミュニケーションツールとして、保護者専門ページの作成。成績や出席状況、予定等など ID・パスワード管理で作成できないか。
- ・就活だけでなく、健康面のサポート、グループパワーを活用した高校生支援もあり充実が感じられる。Web 面接などを積極的に導入。チームスの導入で就活が良い進化になっている。
- ・学生がしやすい就活方法、時代ならではの情報提供体制がしっかりとできている
- ・しっかりと整備されている。チャット、面談なども有効活用し、相互にコミュニケーションが取れている。コロナによるオンライン化も一方では良い試作、学生支援の一助になっている。

学校関係者評価平均

4

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①講義室、実習室には教室担当者を決めて管理し、定期的で大掃除、片付けなどのメンテナンスを行っている。
- ②すべての教室は学生に自由開放し、自習が可能な状態となっている。放課後も、月・水・金は19時、火・木は20時まで、土曜日は午前中を開放している。
- ③ミシン、製図盤、レーザー加工機などの機器は年に1～2回専門業者がメンテナンスを行い必要な修繕を実施している。
- ④教室内で劣化の進んだ壁の張替えや、傷んだブラインドの交換を行い館内の美化を推進した。
- ⑤オンライン授業に対応するための必要な機器備品を令和2年以降順次揃え、WiFi環境もさらに充実させたため、どの教室でも安定してオンライン授業が実施でき、授業の精度も上がっている。
- ⑥定期的な防災訓練の実施、保存食の備蓄、常備薬の定期的補充など、防災に対する体制は整備されている。
5階には車椅子利用学生を救助できる腰掛式担架を設置している。他にもガス缶を使用して発電する発電機2台、蓄電器2台を常設しており停電時のバックアップ電源を確保している。
- ⑦職務分掌で担当者を任命し体制を整え運営している。

今後の改善方策

- ・学生数の増加に伴い、近隣に確保した日吉町教室（41人収容）はフル稼働したが、それでも足りない場合は外部施設を使うなど、適宜対応していく必要がある。
- ・従来からの就職先とのパイプを確保しつつ、インターンシップ先の新規開拓も引き続き行っていく。
- ・いざという時に教職員が発電機を実際に使えるよう定期的な訓練を実施する。
- ・築20数年が経ち、各部で経年劣化が進んでいる。常に学校を点検し必要に応じて対処する。

<u>学校関係者 評価コメント</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・適切にメンテナンスと補充が行われていると感じる新キャンパスへ更なる充実が期待される ・海外研修に行けないと環境が狭くなってしまいか心配。その変わりとなる世界基準のデザインを目にする機会があればと思う。 ・L G B Tに対する配慮が今後求められてくると思われます。 ・実習室等の設備も充実している。防災対策も整備されている。 ・安心安全な教育環境の整備は重要。また、学生たちが高いスキルを身につけるための教育機材の更新も大切 ・管理は適切であり、今後の方針も明確。万一に備えての体制も万全。移転後に環境が大きく変わるため留意が必要 	

学校関係者評価平均 4

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4

<u>成果と課題</u>	
<p>①入学案内をする学校パンフレットは毎年更新し、必要な情報を適切に掲載している。また、学校HPにおいても必要な情報を提供している。</p> <p>②学生募集については教職員一丸となって取り組んでおり、広報資料・募集要項の内容等は毎年更新している。学校説明会は5月から翌1月まで開催し合計6回行った。オープンキャンパスは3月から9月まで11回（5回はオンラインで実施）開催した。内容はその都度学科内で検討し、集客に努めた。オープンキャンパス参加者からの出願率は前年より向上した。</p> <p>③コロナ禍においてもオープンキャンパスの開催方法を工夫し、半日で体験での体験ながら、高校生への対応がしっかりできるよう配慮した。その結果、学科ごと入学者のバラつきが発生したが、定員190名に対して234名（前年度254名）の学生が集まり、全体としては定員を大幅に超える入学生数を確保することができた。グラフィックデザイン科は収容能力の問題から第3次入試まで締め切りとした。</p> <p>④オープンキャンパス、学校説明会において、必ず学習成果を見える化した資料を用意し説明した。</p> <p>⑤他校と比較しても高すぎず、安すぎず妥当な水準を保っている。</p>	

<u>今後の改善方策</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・御幸町新校舎への移転を募集活動に活かす。 ・コロナ禍でも対応できるようオンライン募集の手法を研究する。 ・定員未達のファッションデザイン科を重点フォローして学科の魅力と募集戦略を再考し、定員確保を目指す。 ・18歳人口の減少を踏まえ、反応者の獲得につながる積極的なアクションを起こしたり、一度接触した反応者を出願に結び付けたりする適切なフォローを心掛ける。 ・他校との違い（本校の特色、強み）を明確に打ち出していく。 ・学内でのTwitter等のSNSの活用が浸透し、高校生への広がりをみせてきている。募集活動につながるよう、 	

さらに機能させる。	
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagramでの情報公開を充実させ、学校の特養や雰囲気をもっと広く伝えることができると思う ・学校の SNS ではファッションビジネス科の写真がアップされていることが多い。ファームでの展示案内をアピールすると良い。 ・オープンキャンパスの中学生版を実施してはどうか ・高専、学校案内、ガイダンス等充実している。SNS 活用した高校生に向けての配信もされていて良い。県内では圧倒的 No.1 ということをもっとアピールできれば。 ・入学者の状況からして現状でも十分な対応がなされているとは思いますが、小中学生向けなど、また Web の活用などさらなる工夫が求められる 	
学校関係者評価平均	4

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	3
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
学校自己評価 平均		3.95
<u>成果と課題</u>		
<p>①職員は年度初めに目標シートを作成し、年度末に成果を自己評価する。目標シート作成時と自己評価時に上位者が面談して教職員の能力、業務内容をチェックする仕組みがある。</p> <p>②学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月・9月・2月に定期的実施され、議事録は適切に作成され、管理されている。組織間の連携は、校長会及び4つの部会（進路、企画、教育、広報）と中期計画策定委</p>		

員会を中心に十分な連絡会が持たれている。事務局機能として専門学校事業室が機能し、全体の連携をさらに円滑にしている。

- ③災害時の連絡網は構築されている。新型コロナウイルス対策についても対策本部を設けて対応している。
- ④防災計画は年度ごと見直しを行い防災マニュアルに反映し、非常時の危機管理対策について周知徹底している。防災訓練は年1回必ず実施している。またAEDは学校1F事務室に配置されており、全教職員がAED講習を受講しAED操作の訓練を行っている。
- ⑥事業計画に沿った運営方針を定め、学校運営を行っている。
- ⑦就業規則などの諸規定は整備されており、一部抜粋が規定集として全職員に配布され、またすべての規定集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ⑧人事、給与に関する規定が整備されている。
- ⑨職務分掌の制定によって、教務・財務の意思決定がなされている。
- ⑩教育活動の成果は積極的にプレスリリースし、多くの取材にも応じている。例年は40～50件であるが、当年度は過去最高の69件が記事となった。また、学校HP上でも情報は適宜公開している。
- ⑪情報のデジタル化が進み、業務の効率化、資源の削減が図られてきた。会議資料ではほぼ紙を使用しない。
- ⑫中長期の学校運営計画を元に収支計画を立て運営している。2024年に校舎移転ができるのも財務基盤が安定していることの表れでもある。
- ⑬次年度の当初予算・収支計画を立て法人本部で審議した上で予算執行を行っている。執行状況をみながら年3回補正を行っている。
- ⑭財務状況についての会計監査が実施され、適切に運営されていることが証明されている。
- ⑮学園の財務情報については、学校HP上に公開されており常時閲覧可能となっており、財務分析比率は適切な数値となっている。
- ⑯年2回、幹事監査が行われており、法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているかのチェックがなされている。
- ⑰個人情報を使用目的等を明示したうえで収集、利用、廃棄しており適切に管理している。成績を付ける際の名簿のやり取り時にはパスワードを設定している。また、入学時に本人が希望した場合に個人が特定できる情報公開をしないようにするための要望書を提出させている。
- ⑱年度初めに必ず自己評価を行い、併せて学校関係者評価委員会を開催して意見をいただいている。前年度の振り返りを行い絶えず問題点の改善に努めている。
- ⑲自己評価結果は学校HPで公開している。

今後の改善方策

- ・令和2年度以降新任教職員が増えたが、コロナ禍の影響もあり、新人研修でAED講習ができていない。早めに講習を受けるようにする。
- ・AEDについては定期的な講習を行い、非常事態に備える。
- ・学校の基幹システム（教務、広報、就職）の連携を進めて業務の効率化を図る。
- ・新型コロナウイルス感染症に備えた危機管理の在り方を適宜更新する。
- ・学校の安全性を高めるために増設した校内の防犯カメラの効率的な運用。

学校関係者 評価コメント

- ・親目線からすれば、運営管理の安定はもとより、教職員の人間性がもっとオープンに知れる機会があると良い
- ・いざというときの対応を新規採用職員にもしっかりと備えてもらいたい。

- ・情報の保護への対応が必要。世間では教員の不祥事が増えている、モラルアップ必要。
- ・きちんと整備され、整った運営がされている。
- ・運営基盤の安定は重要。教職員の意識向上、情報共有も大切なこと。そしてやりがいの持てる職場としての学校運営がなされていることを望む。
- ・適切に運営されている。安心、安全にかかわる取り組みも実施されている。

学校関係者評価平均

4

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①『クリスマスフェスタ』等地域のイベントに積極的に参加し、地域貢献を図ってきた。ただし、新型コロナウイルスの影響により実施できないものも多かった。中学校からの依頼によるキャリア教育、高等学校から依頼によるデザイン関連体験授業等にも対応している。
- ②留学生の受入体制については、留学生担当を設け対応している。また、入国管理局への報告事項も適正に行われている。入国管理局より適正校であることの文書が届いている。
- ③ブラジルの漫画家のプロダクションとのコラボ授業を行い、ブラジルの文化について学ぶ機会を創出した。
- ④ボランティア等の依頼については、社会のコロナ感染拡大の状況を観て、案内するか否かを決定、実施のものは一斉メールによる募集案内を行ったり、校内掲示を行ったりして積極的に参加を募っている。

今後の改善方策

- ・様々な活動へ積極的に参加する学生を支援する体制を学内に整える。
- ・留学生は日本の慣習が分からないことも多いため、日常生活に関するサポート体制を充実させる。また、留学生同士が助け合える環境を用意する。

学校関係者 評価コメント

- ・地域交流に関してはさすが静岡デザインという印象。海外との交流も期待したい
- ・新校舎に移転したら、今よりもっと地域交流しやすくなり、もっと近いものになればよいと思う。コロナで交流が減る中でデザインの力、シズデの力でこの街を盛り上げてほしい。
- ・海外の学校との連携
- ・留学生の受け入れも行っており、地域・社会貢献も積極的に行っている。地域に密着した専門学校として活動が地域に伝わると良い。
- ・国際交流という点では、留学生の受け入れより海外との穀粒授業や国際的なコンテストの参加などを積極的に展開するのが良い
- ・コロナ禍で難しいなか、貢献活動ができています。小規模であるが、国際交流も行っている。

学校関係者評価平均

4